

エコステーション活動に参加してみようⅡ

～多忙な人向け・活動時間5秒?～

本多 広樹（地球学類3年） 今井 優真（地球学類3年）

背景

現在、筑波大学では「エコステーション」の運用により、資源ごみの分別回収が行われている。大学として、分別の意識は高いと言えよう。しかし、個々の学生ではどうだろうか。筑波大学の広大なキャンパス内で、全員が分別を行っているのだろうか。エコステーションに持ち込まれる資源ごみは、きちんと分別されているとは言えないものも多い。つまり学生の意識は一概に高いとは言えないのだ。



学生の分別意識を高める必要がある。

→意識が低いのは「他人事」だから。
→自分でやれば、意識が変わる。

目的

- ・学生が自ら分別に関わるようにする。
 - ・普段からやった方が簡単だと知ってほしい。
- この理念を含む活動目的を設定。



「学生が自ら分別活動を行うことを通し、日常生活中で分別するという意識を高め、普段から『5秒』使って分別してもらおう。」

対象：ペットボトル

理由：現状を見ると、キャップとラベルがついたままのボトルがまだ多い。また、ペットボトルは大学内外で数多く売られ、日常生活中で頻繁に利用される「身近なもの」である。その「身近なもの」はほんのわずかな時間で分別できると知らせることで、分別の意識向上を狙いたい。

キーワード：「5秒」

→分別とはすぐできるものである、とアピール。



溜まった未分別のペットボトルを分別して「苦労」しよう。
普段から「5秒」使った方がずっと「楽」できる。

活動成果

活動前後の写真



2時間後

1本当たりの所要時間は「5秒」。
しかしこれだけ集まると、それは
7200秒（1440倍）
になる。



今後の活動

1. 集積場での分別作業

→苦労する経験は重要なものとなる。また成果が明白な形で現れるため、モチベーションを維持できる。
さらに、活動風景が目に触れることで啓発効果が期待できる。

2. 大学内各ごみ箱への掲示

→目に触れる、意識を向ける回数を増やすことで普段から「5秒」使ってもらうことを目指す。

3. 他団体との連携

→同様の活動を行う他団体との情報交換を通し、分別の意識の輪を広げる。

また、複数地点でのペットボトルの分別状況を把握し、ごみ箱やキャップ回収箱の増設のような対策案を提言していく。

→提案書を企画室に提出、対応が取られた。

あなたも「5秒」使いませんか？